

小学校教員養成課程における音楽科教材に関する研究

— 歌唱共通教材を中心として —

A Study on Music Teaching Materials Used in Elementary Teacher Education
Program: Focusing on Common Materials for Singing

岩川 みやび

Miyabi IWAKAWA

概 要

日本人には世代を超えて歌うことのできる歌がある。学習指導要領に示されている歌唱共通教材は、日本の豊かな四季を感じることができるとともに、様々な世代の人と歌うことのできる珠玉の歌である。

本研究では、小学校教員養成課程で学ぶ学生を対象に、歌唱共通教材について調査した結果を踏まえて、教員養成課程における共通教材の教育的意義と歌詞・曲の特徴や作詞者・作曲者、および制定の経緯などについて検討・考察する。さらに「音楽科」授業における歌唱共通教材の意義と可能性についても検討する。

キーワード：唱歌／歌唱／教員養成／学級担任／歌唱共通教材

Abstract

There are songs that are sung by Japanese people across generations. Common teaching materials for singing, which are presented in the course of study, are the songs that make us feel the four seasons in Japan and allow us to sing together with Japanese people from various generations. This study conducted a survey about common teaching materials for singing with students involved in the elementary teacher education program. Based on the result of the survey, this study discussed the pedagogical significance of the materials in the teacher education program, as well as the characteristics of the songs and lyrics, lyric writers and composers, and how the songs were established. This study also considered the significance and possibility of the music teaching noted in the course of study, including cultivating the students' sentiments and a sensitivity towards music.

Keywords : song, singing, teacher education, homeroom teacher, common teaching materials for singing

目 次

- 1 研究の目的
- 2 研究の方法
- 3 歌唱共通教材の意義と内容
 - 3.1 歌唱共通教材の歴史と意義
 - 3.2 学習指導要領に示された歌唱共通教材
- 4 歌唱共通教材についての学生の認識
 - 4.1 基礎的技能について
- 5 歌唱共通教材の弾き歌い指導のために
 - 5.1 歌唱のために
 - 5.2 ピアノ伴奏のために
 - 5.3 高野辰之作詞・岡野貞一作曲による共通教材
- 6 歌唱共通教材以外の唱歌の指導
 - 6.1 教科書教材の分析
 - 6.2 指導の在り方
- 7 今後の展望と課題

1 研究の目的

学習指導要領に示された歌唱共通教材は、世代を超えて歌うことのできる歌である。

本研究では、小学校教員養成課程で学ぶ学生を対象に、歌唱共通教材について調査した結果を踏まえて、小学校教員養成課程における歌唱教材の選択と弾き歌いの必要性について提示していく。しかし、学生が限られた時間の中で弾き歌いを習得するには課題がある。

本稿では、小学校教員養成課程において、どのように歌唱教材を選択し、実践的に授業を展開していくかを考察することによって、学生が継続して音楽に親しむことのできる音楽指導を考えていくことを目的とする。

2 研究の方法

調査の対象は、小学校教員養成課程で学ぶ本学の学生 135 名とし^(注1)、歌唱共通教材を中心とした歌の認知度や音楽経験の有無から分析を行う。

本研究では、歌唱共通教材についての習得経験を調査し、音楽との関わりを明らかにしつつ、小学校教員となった際、指導を行う場合の指導法と指導能力の向上に関わる提言を行う。

3 歌唱共通教材の意義と内容

3.1 歌唱共通教材の歴史と意義

日本で最初の音楽の教科書「小学唱歌集」が 1882 年に発行され、その中には「ちょうちょう」「むすんでひらいて」など外国の歌を原曲とした歌があった。

明治 44 年発行の『尋常小学唱歌』は、1911 年から 1914 年にかけて文部省が編纂した尋常小学校用の唱歌（教科）の教科書である。一年前、先に編纂された『尋常小学読本唱歌』を引き継いだものである。第一学年用から第六学年用までの全 6 冊で、1 学年ごとの収録曲は 20 曲であった。先の『尋常小学読本唱歌』に並行する形で、文部省が東京音楽学校に編纂を依頼し、委員によって構成された編纂委員会において合議により作詞、作曲された。

学習指導要領には、音楽の歌唱共通教材が示されている。共通教材は小学校教員を目指す学生にとっても必須である。平成 20 年告示の学習指導要領より、歌唱共通教材が多く取り扱われることになり、平成 30 年告示の学習指導要領においても継続して多く取り扱われると予想される。歌唱共通教材として取り扱う曲数が増えた理由として、文部科学省は、ホームページ上で次のように答えている。

「歌唱共通教材を設けている意義は、我が国で親しまれてきた唱歌や童謡、わらべうた等、を、子どもからお年寄りまで世代を超えて共有できるようになることにあります。また、我が国で長く歌われ親しまれてきたうたを取り扱うことは、我が国のよき音楽文化を受け継いでいく意味からも大切です。そのようなうたが更に取り上げられるように、これまで各学年ごとに 4 曲示してきた楽曲の中から、第 1 学年から第 4 学年までは 4 曲すべて（以前は 4 曲中 3 曲）を取り扱うこととし、第 5 学年及び第 6 学年は 4 曲中 3 曲（以前は 4 曲中 2 曲）を含めて取り扱うことしました。」（文部科学省，2009）

このように平成 20 年の告示以降、学習指導要領で取り扱う歌の曲数が明確に増えることとなった。

3.2 学習指導要領に示された歌唱共通教材

音楽科の経験領域は、大きく表現と鑑賞の二つに分けられる。表現は、歌唱、器楽、音楽づくりの 3 分野に細分化される。学習指導要領（2008）には、表現の中の歌唱共通教材が各学年 4 曲ずつ、6 年間で 24 曲があげられている。そのうち 17 曲が文部省唱歌である。これらの文部省唱歌は、明治の終わりから大正の初めにかけて作詞作曲された。

学習指導要領には、次のように記載されている。

◇低学年の歌唱共通教材

各学年の目標及び内容

A 表現

- (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。
- (2) 器楽の活動を通して、次の事項を指導する。
- (3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を指導する。
- (4) 表現教材は次に示すものを取り扱う。
 - ア 主となる歌唱教材については、各学年ともウの共通教材を含めて、斉唱及び輪唱で歌う楽曲
 - イ 主となる器楽教材については、既習の歌唱教材を含めて、主旋律に簡単なリズム伴奏や低声部などを加えた楽曲
 - ウ 共通教材

表 1-1 歌唱共通教材一覧 文部科学省 『小学校学習指導要領』2008

【第1学年 第2学年 A表現 共通教材】

〔第1学年〕	
「うみ」	(文部省唱歌) 林柳波作詞 井上武士作曲
「かたつむり」	(文部省唱歌)
「日のまる」	(文部省唱歌) 高野辰之作詞 岡野貞一作曲
「ひらいたひらいた」	(わらべうた)
〔第2学年〕	
「かくれんぼ」	(文部省唱歌) 林柳波作詞 下総皖一作曲
「春がきた」	(文部省唱歌) 高野辰之作詞 岡野貞一作曲
「虫のこえ」	(文部省唱歌)
「夕やけこやけ」	中村雨紅作詞 草川信作曲

第1学年と第2学年は、学級担任が音楽の授業を担当する可能性が大きいことから、いずれの曲も、教師が弾き歌いできることが重要となる。

◇中学年の歌唱共通教材

第3学年と第4学年では、学校によっては音楽専科が担当することもあるが、比較的学級担任が音楽の授業を担当する可能性が大きいことから、いずれの曲も、教師が弾き歌いできることが特に大切となる。

表 1-2 のように、第4学年になると、遊び歌や童謡がなくなり、音楽的にも内容的にもかなり高度なものになっている。

表 1-2 文部科学省 『小学校学習指導要領』2008

【第3学年 第4学年 A 表現 共通教材】

〔第3学年〕	
「うさぎ」	(日本古謡)
「茶つみ」	(文部省唱歌)
「春の小川」	(文部省唱歌) 高野辰之作詞 岡野貞一作曲
「ふじ山」	(文部省唱歌) 巖谷小波作詞
〔第4学年〕	
「さくらさくら」	(日本古謡)
「とんび」	葛原しげる作詞 梁田貞作曲
「まきばの朝」	(文部省唱歌) 船橋栄吉作曲
「もみじ」	(文部省唱歌) 高野辰之作詞 岡野貞一作曲

◇高学年の歌唱共通教材

表 1-3 は、第5学年、第6学年の共通教材であるが、第4学年までと異なり、「ア 主となる歌唱教材については、各学年ともウの共通教材の中の3曲を含めて、斉唱及び合唱で歌う楽曲」と書かれている。つまり、学校の年間指導計画において、取り扱う歌が変わってくるのである。

表 1-3 文部科学省 『小学校学習指導要領』2008

【第5学年 第6学年 A 表現 共通教材】

〔第5学年〕	
「こいのぼり」	(文部省唱歌)
「子もり歌」	(日本古謡)
「スキーの歌」	(文部省唱歌) 林柳波作詞 橋本国彦作曲
「冬げしき」	(文部省唱歌)
〔第6学年〕	
「越天楽今様 (歌詞は第2節まで)」	(日本古謡) 慈鎮和尚作歌
「おぼろ月夜」	(文部省唱歌) 高野辰之作詞 岡野貞一作曲
「ふるさと」	(文部省唱歌) 高野辰之作詞 岡野貞一作曲
「われは海の子 (歌詞は第3節まで)」	(文部省唱歌)

4 歌唱共通教材についての学生の認識

歌唱共通教材を教材として使用する中で、学生の音楽経験の中で、小学校時代に習った記憶のあるものもない歌、知っている歌と知らない歌があることがわかった。

そのため学生を対象にさらに記述式の調査を行った。

調査の結果から、現在共通教材であるが、対象学生が小学校時代において学習指導要領の変遷の結果、比較的身近ではない歌があることがわかる。

しかしながら、どの歌にも共通することからみえてくるものをまとめる。

- (1) 日本の風土である四季折々の情景や人々の暮らしを感じ取り、想像する。
- (2) 文語表現を含む歌詞において、言葉の響きや意味をとらえる。

教員養成課程とは、教師を目指す学生のために大学に設置されている課程のことで、本学では、小学校教員一種免許状取得希望の学生が学んでいる。

小学校教員は、一人ですべての教科を担当することが前提であるため、小学校教員を希望する学生にとっては、実技を伴う教科は他の教科と比べ個人差が大きいという実態がある。

4.1 基礎的技能について

音楽経験の少ない学生にとって、ピアノの弾き歌いは非常に難易度の高い課題となる。また、練習を始めてみると苦手意識を持つ学生は多い。教育実習や教員採用試験に備えて十分に練習してほしいところだが、苦手意識が先に立ち、後回しになる傾向にある。また、弾けるようになりたいという意欲は高くても方法がわからない、という声をよく耳にする。

実際に平成28年度入学の学生135人を対象に音楽経験を調査した。図1の結果から、小学校教員を目指す学生であるが、これまでに音楽経験があり6年以上ピアノや電子オルガンを習っていた学生は20%に満たないことがわかる。

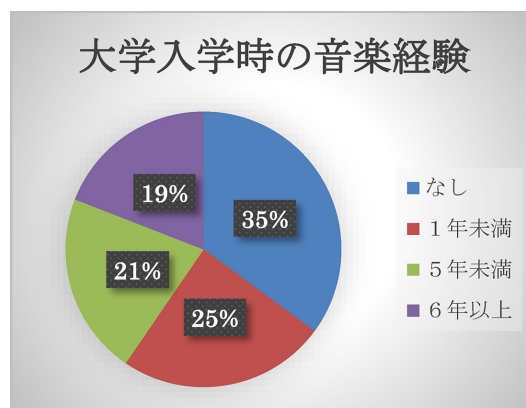


図1 大学入学時の音楽経験調査

【総数135名（教育学部）；入学時の調査】

また、音楽経験は中学3年間と高校三年間の吹奏楽部での部活経験で金管楽器の経験はあるが、鍵盤楽器主にピアノとなると弾いた経験がない、または自信がないという学生も多くいた。

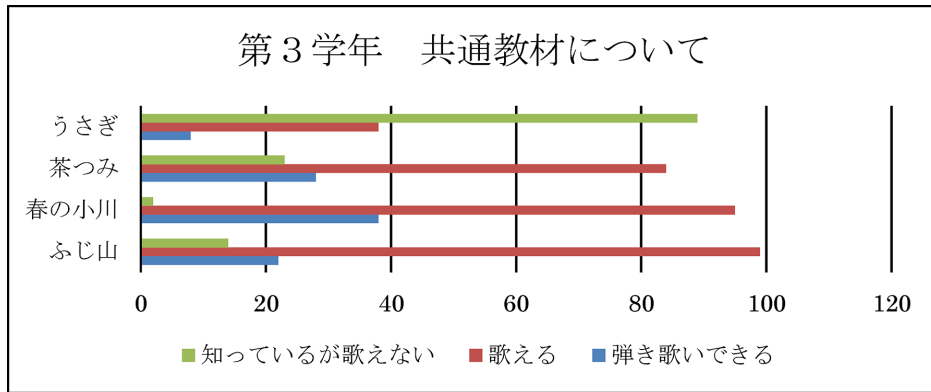


図2 小学校 第3学年 歌唱共通教材について

【総数 135 名（教育学部）；入学時の調査】

第3学年の共通教材では、主に「茶つみ」と「ふじ山」は認知度が高く、他教科との関連をしながら身に付けた。学校の屋上から富士山が見える学校であったため、屋上で歌った記憶があるなどの回答を得た。

第4学年の共通教材である「まきばの朝」は、調査の結果、「歌を知らない、聞いたことがない、習った記憶がない」という学生が非常に多くいた。

平成28年度入学の学生たちが小学校4年生の時には、学習指導要領に「4曲中4曲を扱う」との記述がないため、4曲中3曲の中に入らず、残りの1曲になっていた可能性が大きいことが分かった。

小学校教員養成課程で学ぶ学生においては、「まきばの朝」をどのように学んでいき習得するかは鍵になると考える。

実際に、大学の授業の中では、「まきばの朝」の歌詞を解釈したり、歌詞に出てくる鐘の音の距離感を学生同士で学び深めたりする時間を設定した。

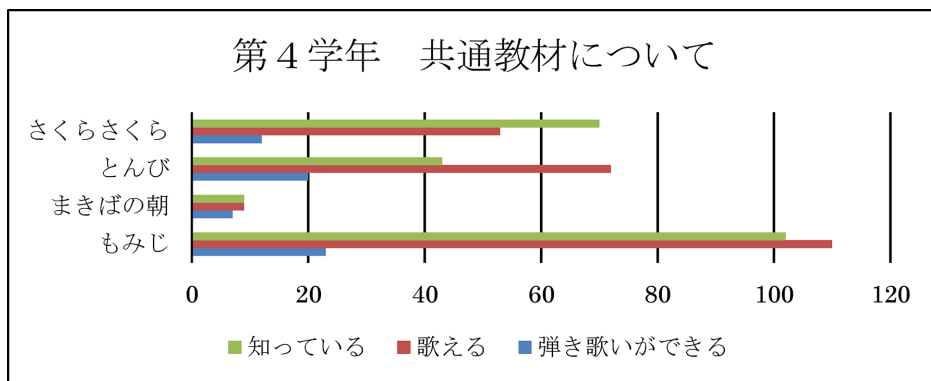


図3 小学校 第4学年 歌唱共通教材について

【総数 135 名（教育学部）；入学時の調査】

5 歌唱共通教材の弾き歌い指導のために

5.1 歌唱のために

ピアノの弾き歌いに挑戦する前に必要なことは、歌詞の理解と安定した音程で歌唱できることである。本学の学生は、ピアノ経験は少ないが歌唱に意欲的な学生が非常に多い。

まず初めに小学校時代を思い出し、学生全員で歌唱する。懐かしい気分になって意気揚々と歌う学生や、習った記憶がないが必死に楽譜を見ながらついてくる学生、ほかの学生の歌を聴くことに浸る学生等様々である。

基本的な技能の習得のためには、まず学生自身が歌を知り、歌えるようになることが弾き歌いの前提となる。

その際一度や二度歌うのでは、身につくものではないため、指揮法を指導しながら歌唱をしたり、習熟度によるペア学習の時間を設定したりしながら、鍵盤に慣れ、音楽に触れる時間を確保した。

5.2 ピアノ伴奏のために

弾き歌いを完成させるためには、ピアノを完璧にしてから歌を付けるというように自ら順序立てて練習する学生も多い。せっかく練習の中でピアノが弾けるようになっても歌を付けるとうまくいかなくて苦戦する場合も多い。

早い段階で歌を付けて練習に取りかかるという指導を行った結果、効率的に習得した学生が増えた。

右手、左手、片方ずつ出来たら、右手と歌、左手のみと歌という練習の工夫が大切となる。また、その日に出来たととしても教育実習や実際の現場で、子どもたちの前に立って指導する際に弾き歌いができなければ、意味がないのであるから。継続的な練習が必要になる。根気強く練習を継続することと弾き歌いの楽しさを同時に教授していかなければ、子供たちの指導の際に無伴奏でとか、CDの伴奏になり、子供たちの実態に合わせた効果的な指導が期待できないであろう。

歌唱は、それぞれの人の身体そのものを楽器とし、児童が自分自身の声を肯定的にとらえるように導くことが求められる。教師は、歌っていて楽しいという雰囲気づくりをしなければならない。

◇正確な読譜と効率的な練習方法

最初から自信をもって弾き歌いができる学生は多くはない。調査によると、学生自らが小学校時代に習った経験がある歌は、意欲的に弾き歌いの練習につなげることができていた。また、楽典^(注2)についても学び、まず階名唱ができるようにすることが大切となる。

5.3 高野辰之作詞・岡野貞一作曲による共通教材

歌唱共通教材の24曲を見てみると、表2のように高野辰之作詞・岡野貞一作曲の歌が多いことがわかる。なぜなのかというと、この二人は文部省教科書編集委員として教科書の作成に関わっていたからである。

作詞家 高野辰之は、国文学者であり26歳の時、上田万年文学博士を頼って上京。博士のもとで国語、国文学の研究に没頭し、やがて「文部省国語教科書編纂委員」に選ばれて、国文学者としての地歩を固めた。国が初めて発行した国定音楽教科書「尋常小学唱歌」を編纂する一方で、「春が来た」「紅葉」「朧月夜」などの唱歌を作詞した。

作曲家 岡野貞一は、鳥取県邑美郡古市村（現在の鳥取市）に生まれ、実父を幼少期になくし貧困の中で育つ。1892年、キリスト教徒として鳥取教会（現在：日本基督教団）で洗礼を受け、岡山の教会で宣教師からオルガンの演奏法を習った。約40年にわたり東京の本郷中央教会の教会オルガニストであった。東京音楽学校を卒業。その後、東京音楽学校助教授、教授（声楽）となり、1932年に退官するまで音楽教育の指導者の育成に尽力した。1918年より文部省編纂の尋常小学唱歌の作曲委員であった。

表2 高野辰之作詞・岡野貞一作曲による共通教材

〔第1学年〕	「日のまる」	（文部省唱歌）	高野辰之作詞	岡野貞一作曲
〔第2学年〕	「春がきた」	（文部省唱歌）	高野辰之作詞	岡野貞一作曲
〔第3学年〕	「春の小川」	（文部省唱歌）	高野辰之作詞	岡野貞一作曲
〔第4学年〕	「もみじ」	（文部省唱歌）	高野辰之作詞	岡野貞一作曲
〔第5学年〕		該当なし		
〔第6学年〕	「おほろ月夜」	（文部省唱歌）	高野辰之作詞	岡野貞一作曲
	「ふるさと」	（文部省唱歌）	高野辰之作詞	岡野貞一作曲

6 歌唱共通教材以外の唱歌の指導

6.1 教科書教材の分析

小学校の音楽の教科書は、2つの出版社が作成しており、他の教科に比べて教科書会社が限定されており、比較対照しやすい。小学校教員養成課程を経て晴れて教員免許状を取得し、教壇に立つときには、小学校担任ならば音楽の授業も担当することになり、その際にはピアノの経験の有無を言わず、子ども達に指導する機会がやってくるわけである。

着任した小学校の教科書は、市区町村単位で教科書の採択が行われているため、勤務校が決定するまでは、どちらの教科書を使用しているのかがはっきりわからないこともある。

2つの教科書を調査し、歌唱共通教材以外にも、日本に長く歌い継がれている歌の取り扱いがあることに気付く。2つの教科書とは、教育出版発行の「音楽のおくりもの」と教育芸術社発行の「小学生の音楽」である。

表 3-1 歌唱共通教材以外の唱歌一覧 (教育出版 2015)

1年生	きせつのうた	たなばたさま／たきび／おしょうがつ／ うれしい ひなまつり
2年生	しぜんのうた	つき／とんぼの めがね／雪
3年生	こころのうた	あの町 この町／七つの子／まっかな秋
4年生	きせつのうた	どこかで春が／みかんの花さくおか／里の秋
5年生	山田耕筰・ 中田喜直のうた	ペチカ／待ちぼうけ／星とたんぼぼ／ちいさい秋みつけた
6年生	滝廉太郎のうた	荒城の月／箱根八里

平成 27 年度版「小学音楽 音楽のおくりもの」教育出版には各学年のページの最後にく日本のうた みんなのうた」というページがあり、さらに学年ごとに副題が付けられている。共通教材以外の歌唱教材が歌詞とともに掲載されているが、どれも日本の四季を感じさせる歌である。

表 3-2 歌唱共通教材以外の唱歌一覧 (教育芸術社 2015)

1年生	たなばたさま／おしょうがつ／うれしい ひなまつり
2年生	夕日／とんぼの めがね／シャボン玉
3年生	どこかで春が／ゆりかごの歌／七つの子
4年生	みかんの花さくおか／せいくらべ／みどりのそよ風
5年生	海／ちいさい秋みつけた
6年生	夏は来ぬ／浜千鳥

表 3-1、3-2 にあるように、2つの教科書で共通する歌は、1年生の「たなばたさま」「おしょうがつ」「うれしいひなまつり」、2年生の「とんぼのめがね」、3年生・4年生の「七つの子」「どこかで春が」「みかんの花さくおか」、5年生の「ちいさい秋みつけた」の合計 8 曲であった。

みかんの花が咲く季節は、この歌の作詞者の加藤省吾が育った静岡県伊豆では 5 月初旬であるとされているので、どの歌も季節を感じることでできる歌である。

ここに挙げられた曲は、歌唱共通教材と関わりながら、未来へ歌い継がれる曲としての可能性をもっている。

6.2 指導の在り方

小学校の音楽の授業は、学級担任と音楽専科が行う。歌唱の指導を音楽専科に委ねるだけでなく、歌唱共通教材以外の唱歌の指導こそ、学級担任が積極的に朝の会や帰りの会などで歌う機会を設け子供たちに指導できるようにしたい。そのためには、教員養成課程で学ぶ学生に、歌唱共通教材の弾き歌いを基本として、日本に長く歌い継がれている歌があり、歌唱共通教材以外の唱歌を示し、それらを学生とともに歌唱することも大切となる。

7 今後の展望と課題 — 結語にかえて —

本稿では、小学校教員養成課程で学ぶ学生を対象に、歌唱共通教材について調査した結果を踏まえて、小学校教員養成課程における歌唱教材の選択と弾き歌いの必要性について提示してきた。学生に認知度の少ない歌唱教材を選択し、実践的に授業を展開していくことによって、学生が継続して音楽に親しむことのできる音楽指導を考えていくことを提示してきた。

大学の授業を通して身に付けたピアノの弾き歌いも、継続しなければすぐに両手で演奏できなくなってしまふ。教育実習や教員採用試験などの短期的な目標でなく、継続的に歌唱共通教材の24曲を習得することが重要となるであろう。

子どもの表現力の育成には、教師自身による表現力の示範が大切である。

富澤（2013）は、「共通教材から学べる事柄、それらを応用し、発展させていけば子供たちの周りにあるほとんどすべての歌たちは立派に楽しく演奏できるはずだ」と述べている。さらに富澤（2013）は、「共通歌唱教材以外の曲を演奏した経験が、共通歌唱教材の持つ意味をあらためて明らかにしてくれるのではないか」と述べている。

実際の授業の場では教師は子供たちとともに歌い、楽器を奏でながら指導しなければならない。教室に創造的な場を作りだし、歌声があふれる空間を称賛していくべきであろう。

世代を越えて歌いつがれる歌を歌い続けるためには、子供たちに歌を教える教師の正しい歌への解釈と歌唱教材への苦手意識を持たずに親しみ、歌うことが大切となる。何より小学校教員を志す一人一人が、音楽のもつ力を信じ、感じ取り、子供たちとともに歌唱することが重要であろう。

(注)

- 1 共栄大学教育学部 平成27年度入学生135名を対象にした調査(初等音楽受講学生)
- 2 演奏のために必要な知識、音楽の様々な仕組みを学ぶ分野で主に楽譜についての事柄

引用

- 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 音楽編』 2008 教育芸術社
初等科音楽教育研究会 『最新 初等科音楽教育法 [改訂版]』 2011 音楽之友社
富澤 裕 『歌唱共通教材 指導のヒント』 2013 音楽之友社
新実徳英他 『小学音楽 音楽のおくりもの』〈日本のうたみんなのうた〉2015 教育出版
畑中良輔他 『小学生の音楽』歌いつごう 日本の歌 2015 教育芸術社

参考文献

1. 図書

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領』 2008
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 総則編』 2008
- ・畑中良輔他 『小学生の音楽1～6』教育芸術社 2017
- ・新実徳英他 『小学音楽 音楽のおくりもの1～6』教育出版 2017
- ・国立教育政策研究所 『特定の課題に関する調査(音楽) 調査結果(小学校・中学校)』 2010
- ・佐藤日呂志・坪能由紀子編著 『新学習指導要領の展開 音楽科編』2009 明治図書
- ・坪能由紀子・伊野義博『小学校学習指導要領の解説と展開 音楽編』2008 教育出版
- ・金本正武・坪能由紀子『小学校新学習指導要領 ポイントと授業づくり 音楽』 2009 東洋館出版社

2. 雑誌

- ・平野次郎 “歌唱共通教材をもっと生かそう”『教育音楽小学版』第70巻第7号 2015 p.22-26.
- ・富澤 裕 “難しさを手がかりに”『教育音楽小学版』第70巻第7号 2015 p.26-28.